



新しい牛群検定成績表について (その83)

～ 検定成績表への赤ペンコメント (体細胞数編) アンケート ～

情報分析センター 部長 相原 光夫

今回は、前回の乳量編に引き続き検定成績表への体細胞数に関する赤ペンによる解説コメントを紹介します。体細胞数の改善は、乳房炎の予防、乳量のアップ、繁殖性や長命性の向上からひいては高乳価も狙えるため、酪農の悲願のひとつです。このように関心も高いことから本誌でも幾度となく取り上げているところです。これまで解説してきたことを各検定農家の成績表に赤ペンコメントとして注意喚起を行うものです。

今回も、体細胞数編のアンケートも行いたいと思います。忌憚ないご意見をお寄せ頂きたく、ご協力お願いします。

なお、前回の乳量編は、当団HPで閲覧することができます。<http://liaj.lin.gr.jp/> 「検定成績表の見方」で検索して下さい。

1 アンケート

(1) 赤ペンコメントの実施

現在、実施に向けて、関係者のご意見を集めているところですので、忌憚ないご意見をお寄せ頂きたくお願いします。令和5年度中の開始を計画していますが、詳しくは牛群検定組合を通してお知らせする予定です。

なお、赤ペンコメント実施後も従来の検定成績表を廃止する予定はありません。

(2) アンケート要領

本記事をご一読頂き、ご意見をお寄せください。特に様式はありませんが、次にあげる事項を記入願います。

- ①所属とお名前 (検定農家の場合は農家コード)
 - ②赤ペンコメントを検定農家に配付すべきか
Yes ・ No とご意見
 - ③その他、賛成や反対など、何でもご意見をお願いします
- *返信を必要とされる方は、連絡先も記入願います

アンケート送付先

メール toiawase@liaj.or.jp (メール本文への記入でも良いです)

F A X 03-5621-8922

郵 送 〒135-0041

東京都江東区冬木11-17イシマビル18F

(一社)家畜改良事業団情報分析センター

2 赤ペンコメントの概要

今回、紹介する赤ペンコメントとは、数値の並んでいる検定成績表に飼養管理改善ポイントをコメントで書き込んだものです。図1に見本を示しました。

(1) 赤ペンコメントの種類

検定成績表は、乳量、乳成分、繁殖、健康、遺伝的改良等多岐にわたるものです。これらを一緒くたにしてしまうと、コメントが煩雑になり、何を指摘しているか分からなくなってしまいます。そこで、コメントは乳量関係であれば「乳量編」、体細胞関係であれば「体細胞数編」とコメントの内容別に帳票を分けることとしました。今回は「体細胞数編」を紹介します。

なお、赤ペンコメントの媒体は、紙による送付方式と繁殖台帳WebシステムによるPDF方式の2通りを検討しています。

(2) 赤ペンコメントの内容

赤ペンコメントを検定成績表に記載することは、スペースという非常に大きな制約を受けます。短い文章でコメントするため、基礎的なものとなっています。

また、同じ内容でもコメントが変化することもあります。例えば、体細胞数が高いとき、体細胞数編のコメントは「乳房炎への対応」となりますが、乳量編では「乳量低下の原因」となります。

3 牛群成績での赤ペンコメント

検定成績の1枚目の牛群成績では農家全般にかかる総論的なことを赤ペンでコメント解説します。

(1) 牛群全体の総評 (図1見本①)

最初にご覧になって頂きたいコメントになります。牛群全体の様子が記載されます。体細胞数は通常283千以下であれば、乳価でのペナルティもなく良好と判断されます。牛群検定では飼養管理改善に役立てるのが目的なので、本例となる赤ペンでは良好となる農家でも改善すべき飼養管理ポイントを示します。

(2) 体細胞情報 (図1見本②)

成績表では万人向けに%表示にしてありますが、赤ペンではより具体的に頭数で表示しています。損失金額などもより具体的に補足説明しています。

(3) 搾乳日数 (図1見本③)

搾乳日数は一般には乳牛の生産性や繁殖成績を示しますが、体細胞数にも影響します。泌乳期が長い牛ほど乳房炎を罹患する可能性が高くなります。

(4) 年間追加除籍牛 (図1見本④)

年間追加除籍牛では、牛群の病気による除籍の状況がわかります。健康な牛群ほど乳房炎も罹患しにくいものです。

4 個体成績での赤ペンコメント

体細胞数は乳房炎と表裏一体で、当然ですが病気です。しかも、不衛生な搾乳などによる伝染性も認められることから個体管理が重要となります。個体管理のための情報が満載されているのが、成績表2枚目の個体成績になります。

(1) 素早く体細胞数を改善する (図2見本⑤)

体細胞数は、乳房炎重篤化した体細胞数が高い数頭の牛がバルク乳全体の乳質を悪化させることが知られています。その数頭の牛の生乳を廃棄すれば高い改善効果が得られる場合に示されます。

(2) 体細胞数 (乳房炎) の状況 (図2見本⑥)

飼養管理の一環として乳房炎対策を図る際に、最も

基本的で大事なことは、新しく乳房炎に罹患した牛の頭数よりも乳房炎から回復した牛の頭数が上回ることです。もちろん、新しく乳房炎に罹患する牛はゼロになるのが最も望ましいことですが、少なくとも回復した牛の頭数が上回れば、それは改善傾向といえます。この⑥では改善が進んでいるかどうかコメントしています。

(3) 個体の体細胞数 (図2見本⑦、⑧、⑨)

⑦：乳房炎の個体別の成績です。283千個以上は乳房炎として、目立つように赤のアンダーラインを引いています。体細胞数のとなりに青で数値が囲みである場合は前述の(1)素早く体細胞数を改善する対象牛です。なお、見本は白黒ですがカラー版はHPにあります。

⑧：個別ポイントの矢印で囲んだ⑧の位置に表示されるコメントは、⑦の体細胞数から読み取れる簡単な個別情報です。悪化傾向がある場合に示され、特に「重篤」や「深刻」と表示されている牛は獣医師への相談が必要な牛です。

⑨：改善傾向の矢印で囲んだ⑨の位置に表示されるコメントは、⑦の体細胞数が回復または、改善傾向があるときに表示されます。⑧と⑨は悪化と改善の区別になっているので、⑧より⑨が沢山表示されていれば、その農家の体細胞数は改善傾向にあると言えます。

(4) 飼養管理アドバイス (図2見本⑩)

飼養管理アドバイスの矢印で囲んだ⑩の位置に表示されるコメントは、泌乳ステージ(～45日、46～150日、151日～)ごとに体細胞数が高い牛がいる場合の一般的な飼養管理アドバイスです。

(5) その他の事例

⑪：乳房炎が重篤と考えられる事例です。体細胞数が4526千個以上のときに表示されます。急性であれば伝染性も高いことから、他の牛との接触を注意喚起しています。

乾乳が近いときは、早期乾乳も促すコメントが表示されます。

⑫：未経産加入している牛については、体細胞数の遺伝評価が平均以上^(※)の場合、体細胞数が上がりやすく乳房炎にかかりやすい牛を注意喚起します。

※体細胞数の遺伝評価は、値が低いほど好ましい形質になります。

⑬：乳房炎は乾乳中に治療することが必須です。しかしながら、完治していない例が多いことも認めら

れます。完治していない場合は、初乳時から体細胞数が高く、免疫機能が低いため、子牛への初乳としては不適切なものとなります。

5 さいごに

前回紹介した赤ペンコメントの乳量編は、乳量が低い場合に推察される原因をコメントする内容でした。原因から飼養管理改善を促すことが目的です。反面、今回紹介した体細胞数編は注意喚起が中心となっております。

り、重篤な乳房炎の牛、全体での悪化傾向、遺伝的に注意しないといけない牛などを知らせています。体細胞数の改善のためには、牛舎の清掃や搾乳など多岐にわたる飼養管理全般を良好に保つ必要があります。そのため体細胞数の赤ペンコメントが沢山表示される場合は、飼養管理全般のマネジメントの指標として、何か大きな飼養管理上の課題があることを示していることとなります。

このようなねらいによる赤ペンコメントですので、アンケートのご協力をよろしく願います。

国内情報

令和4年度乳用牛群検定における優秀検定員の表彰

乳用牛群検定の優秀検定員の表彰式が、2月20日に東京都で、28日に札幌市で、3月2日に福岡市で、それぞれ行われました。

これは乳用牛群検定全国協議会が平成元年度から毎年行っているもので、長年にわたり牛群検定の第一線で普及促進に携わり、貢献された検定員の方を各都道府県の推薦により表彰しています。本年度の受賞者は表の23名の方々です。

受賞者のみなさまに心よりお祝い申し上げ、あわせて今後ますますのご活躍をご記念申し上げます。

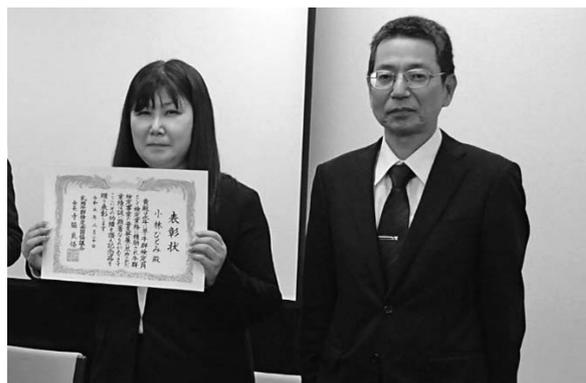


写真 花平乳牛検定組合 小林ひとみ氏（左）と乳用牛群検定全国協議会 寺協会長

令和4年度 優秀検定員受賞者名簿

計23名

ブロック	候補者氏名	都道府県 又は地区	所属
北海道	高橋 渡	上川	ふらの乳牛検定組合
	斉藤 茂則	檜山	北檜山乳牛検定組合
	坂本 友太	十勝	有限責任事業組合 帯広畜産センター
	佐藤 真治	十勝	忠類農業協同組合
	小池 誠二	釧路	音別町乳牛検定組合
	深田 恵利子	釧路	厚岸町乳牛検定組合
	金 大介	根室	道東あさひ農業協同組合
	井上 静江	根室	計根別乳牛検定組合
	東 寿雄	網走	置戸町乳牛検定組合
	宮原 利幸	網走	えんゆう乳牛検定組合
	雨堤 沙織	宗谷	宗谷南乳牛検定組合

ブロック	候補者氏名	都道府県 又は地区	所属
東北	小林 ひとみ	岩手県	花平乳牛検定組合
	千田 弘士	宮城県	県北乳用牛群改良組合
	飯塚 博美	宮城県	県南乳用牛群改良組合
関東	長谷川 進	茨城県	ひので酪農業協同組合検定組合
中四国	前田 拓也	鳥取県	大山乳業農業協同組合
	片山 佳司	岡山県	おかやま酪農業協同組合
	杉崎 正知	岡山県	おかやま酪農業協同組合
	氏本 秀仁	愛媛県	愛媛県第二酪農検定組合
九州 沖縄	今村 誠司	福岡県	久留米乳用牛群改良検定組合
	梅木 勉	長崎県	長崎県央乳用牛群改良検定組合
	岩村 正造	宮崎県	宮崎県乳用牛群検定組合
	識名 盛一郎	沖縄県	沖縄乳用牛改良第一検定組合